

「平成26年度全国学力・学習状況調査」結果のポイント

学力の状況（岡山県公立学校の状況）

(1) 平均正答率の特徴

図表1 平均正答率

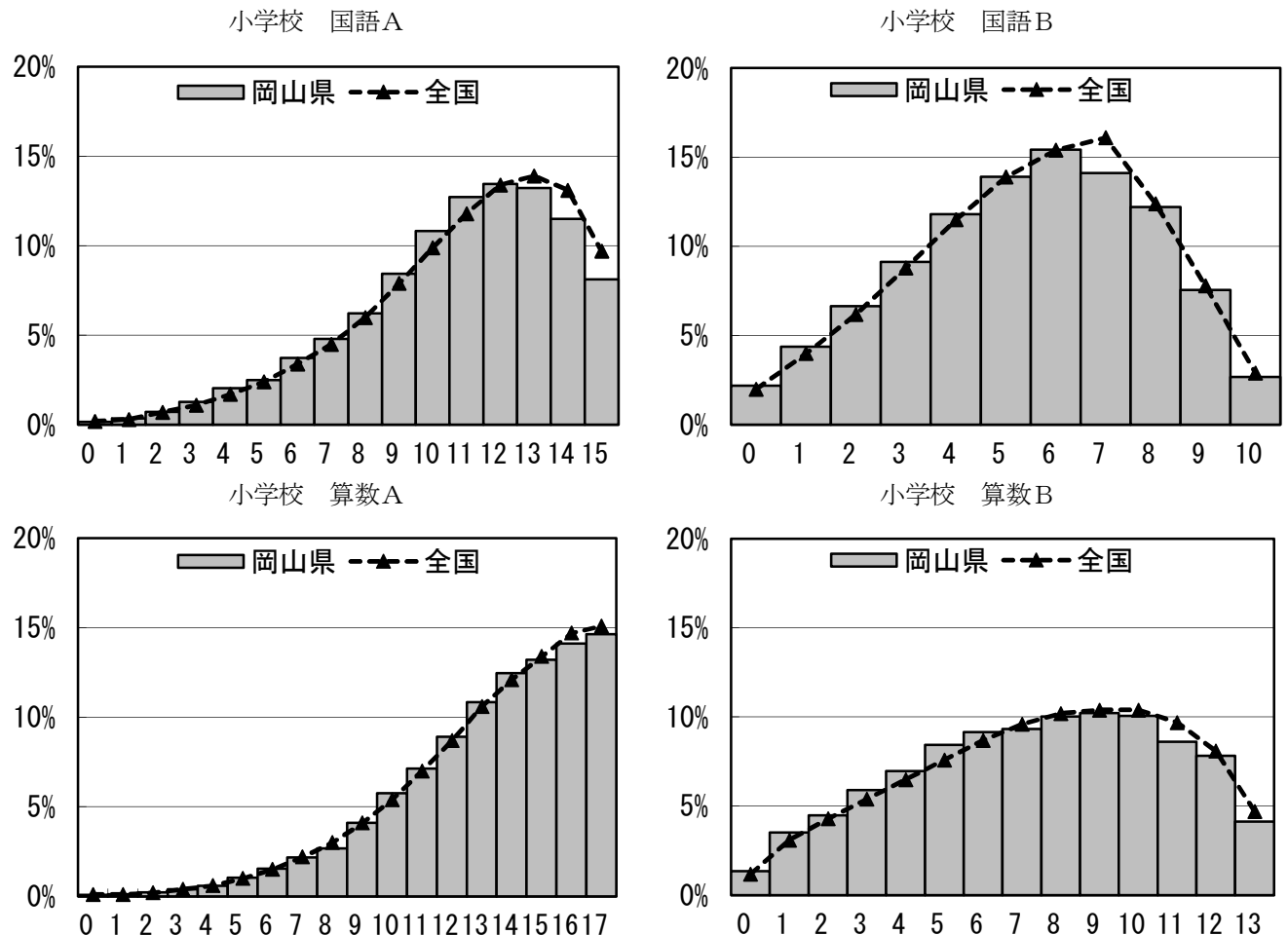
校種	年度	国語A（主に知識）				国語B（主に活用）				算数・数学A（主に知識）				算数・数学B（主に活用）				全体
		岡山	全国	差	順位	岡山	全国	差	順位	岡山	全国	差	順位	岡山	全国	差	順位	順位
小学校	H26	71.4	72.9	-1.5	38	54.5	55.5	-1.0	32	77.8	78.1	-0.3	29	56.6	58.2	-1.6	38	38
	H25	61.4	62.7	-1.3	33	47.7	49.4	-1.7	35	74.6	77.2	-2.6	45	57.2	58.4	-1.2	30	38
中学校	H26	78.2	79.4	-1.2	39	48.1	51.0	-2.9	43	65.4	67.4	-2.0	41	55.9	59.8	-3.9	45	42
	H25	76.4	76.4	0.0	30	66.4	67.4	-1.0	34	62.8	63.7	-0.9	32	40.3	41.5	-1.2	31	32

※ 表中の「差」は、全国と岡山県の平均正答率の差を示す。

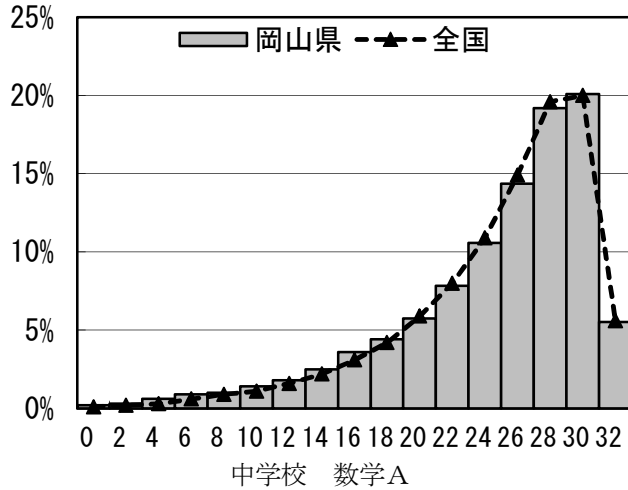
- 小学校においては、全国平均との差が-0.3～-1.6となり、昨年度と比較して、国語B・算数Aにおいて全国平均との差が縮小した。特に、重点的に取り組んだ算数の基礎的・基本的な問題において改善が見られた。
- 中学校においては、全国平均との差が-1.2～-3.9となり、昨年度に比べ、全ての科目において全国平均との差が拡大した。

(2) 正答数分布の特徴

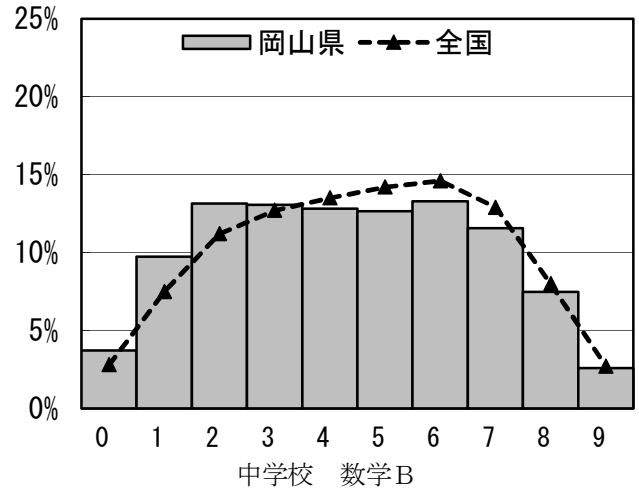
図表2 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



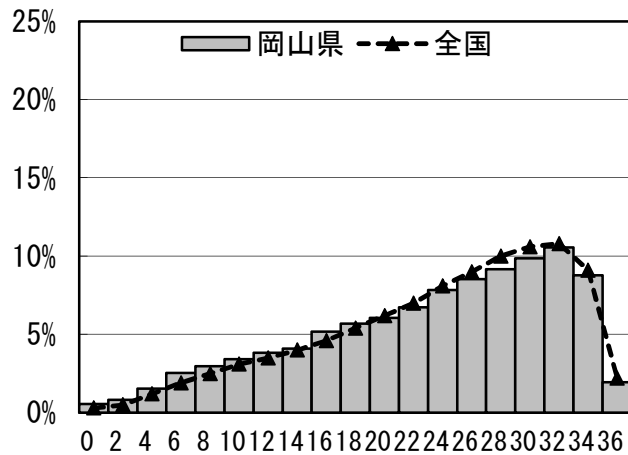
中学校 国語A



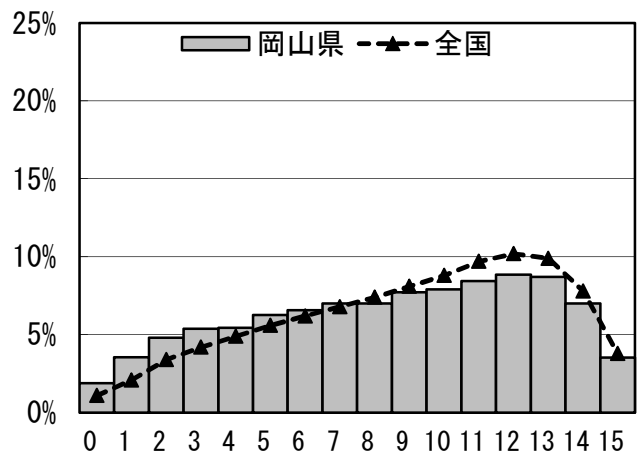
中学校 国語B



中学校 数学A



中学校 数学B



- 小学校においては、全国とほぼ同様の分布になっており、昨年度と比較して、国語A・算数Aにおいて上位層が増加している。
- 中学校においては、全国の分布に近づいているが、国語B・数学Bの下位層が多い。

(3) 学力調査の設問ごとの解答状況（詳細については報道発表資料）

- 小学校において、設問ごとの平均正答率について、全国との差が縮小している。
- 小学校国語Aにおいて、漢字の読み書きの設問については全国との差が縮小するなど改善が見られるが、故事成語に関する設問については全国平均との差が大きく、言葉の意味や使い方の理解に課題が見られる。
- 算数Aにおいて、平均正答率が80%を超えている設問が多く、一定の改善が見られる。特に、昨年度課題があった小数の計算や四則混合計算、分数の計算問題の平均正答率が全国平均を上回るなど、基礎的・基本的な知識・技能を問う設問において改善が見られる。
- 中学校において、設問ごとの平均正答率が全般的に全国平均を下回っているが、数学Aの反比例のグラフや確率についての設問はこれまで同様全国平均を上回っている。
- 小中学校ともに、目的に応じて複数の内容を関連付けて自分の考えを整理したり、判断する根拠を説明したり記述するなど、思考力・表現力を必要とする設問において依然として課題がある。
- 無解答率については、小学校において改善が見られるものの、小中学校ともに、多くの設問において全国平均を上回っている。

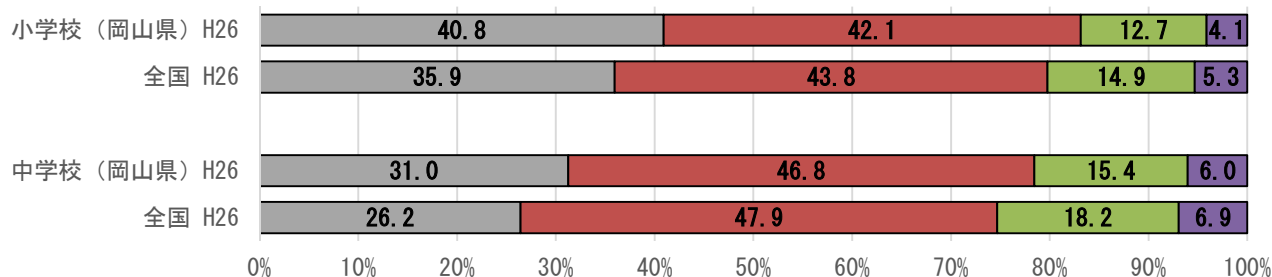
学 習 の 状 況（岡山県公立学校の状況）

（1）児童生徒質問紙調査の結果から見える特徴

図表3 自尊感情、学習意欲、学習方法 等

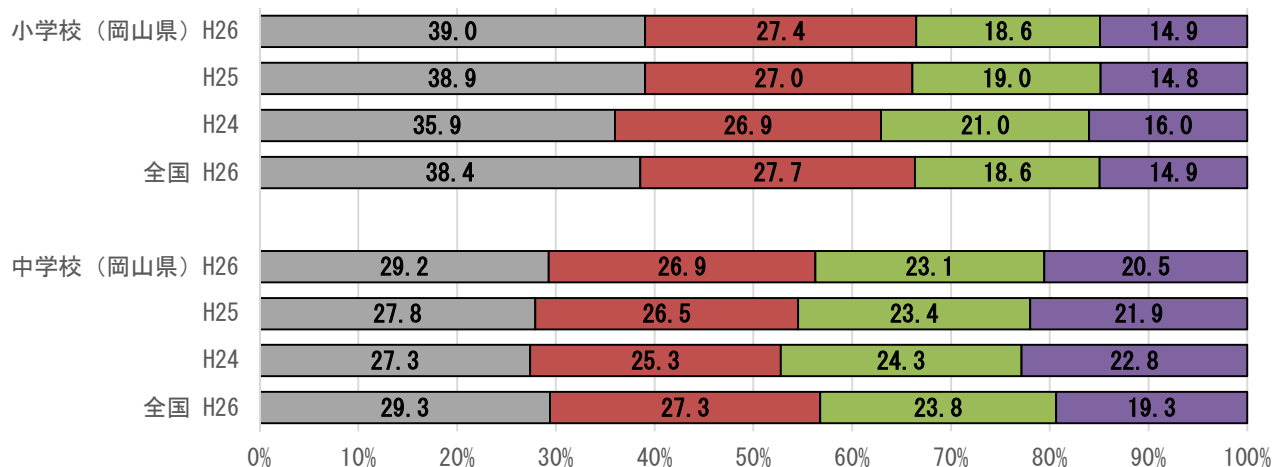
● 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか【新項目】

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまらない ▩当てはまらない



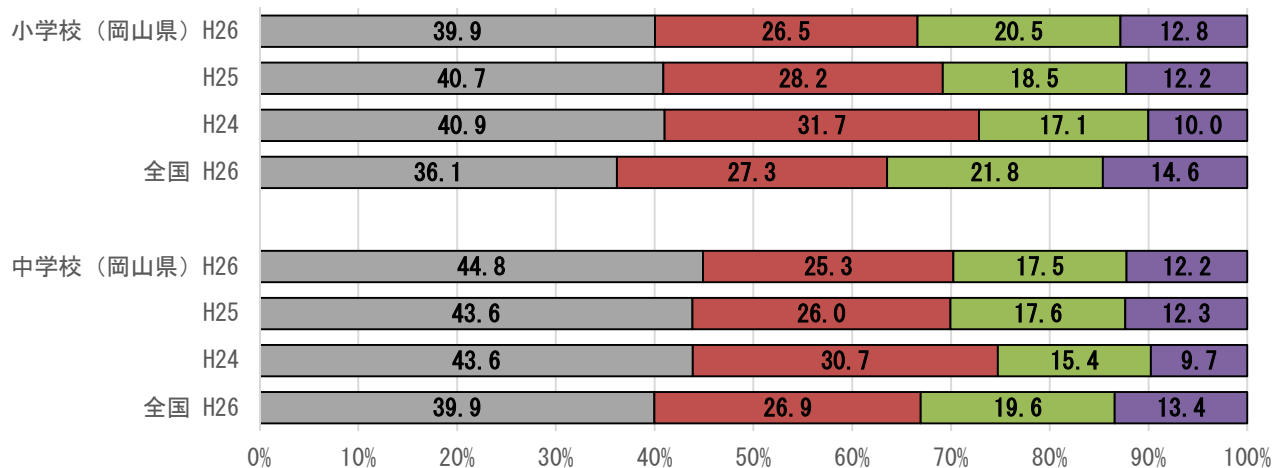
● 算数（数学）の勉強は好きですか

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまらない ▩当てはまらない



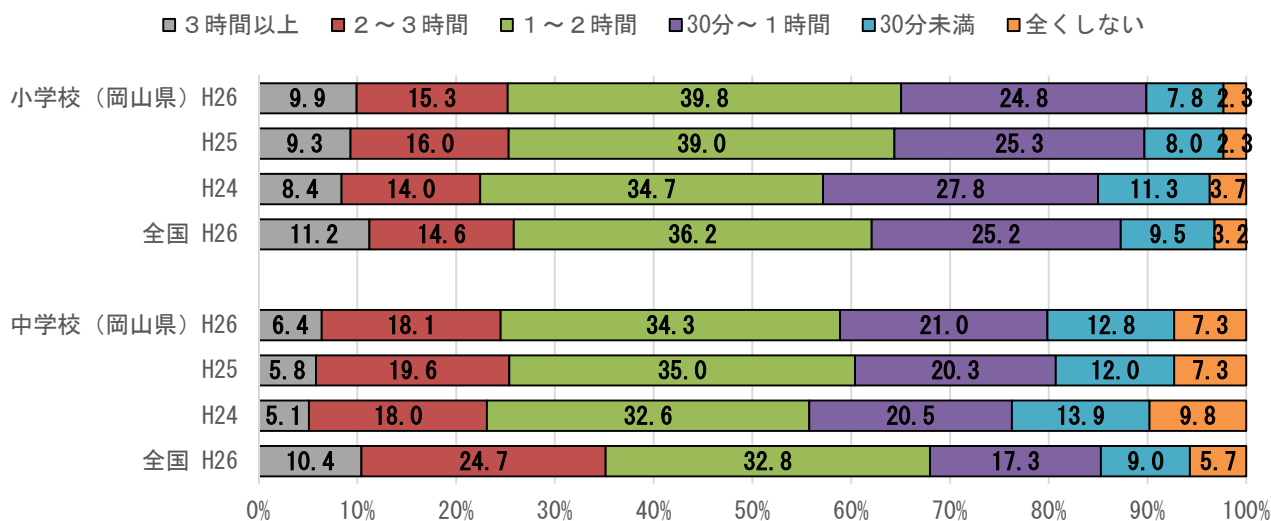
● 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまらない ▩当てはまらない

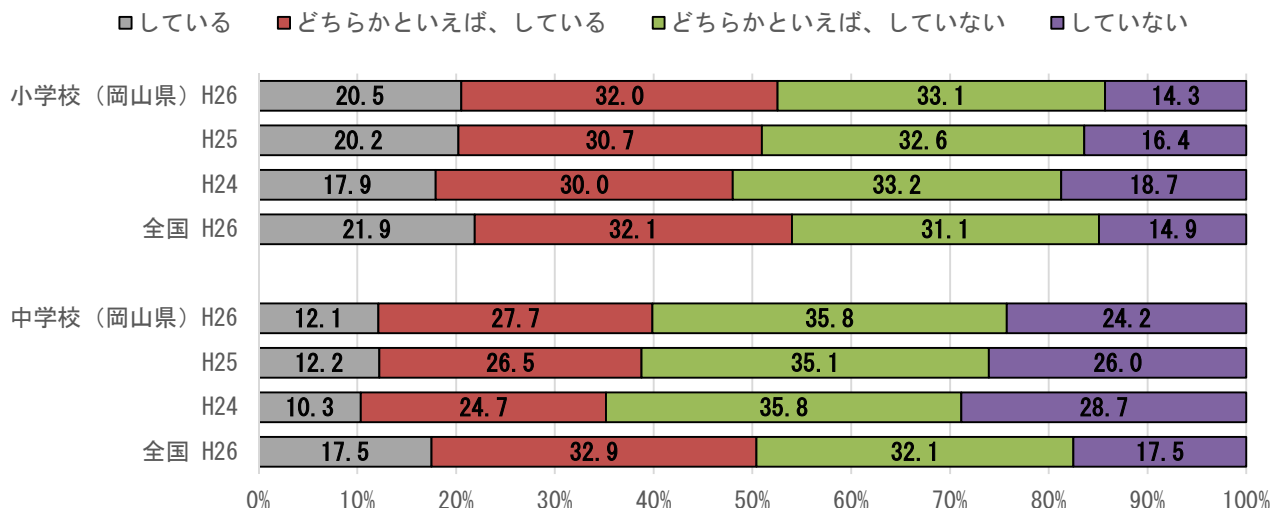


図表4 家庭学習の状況 等

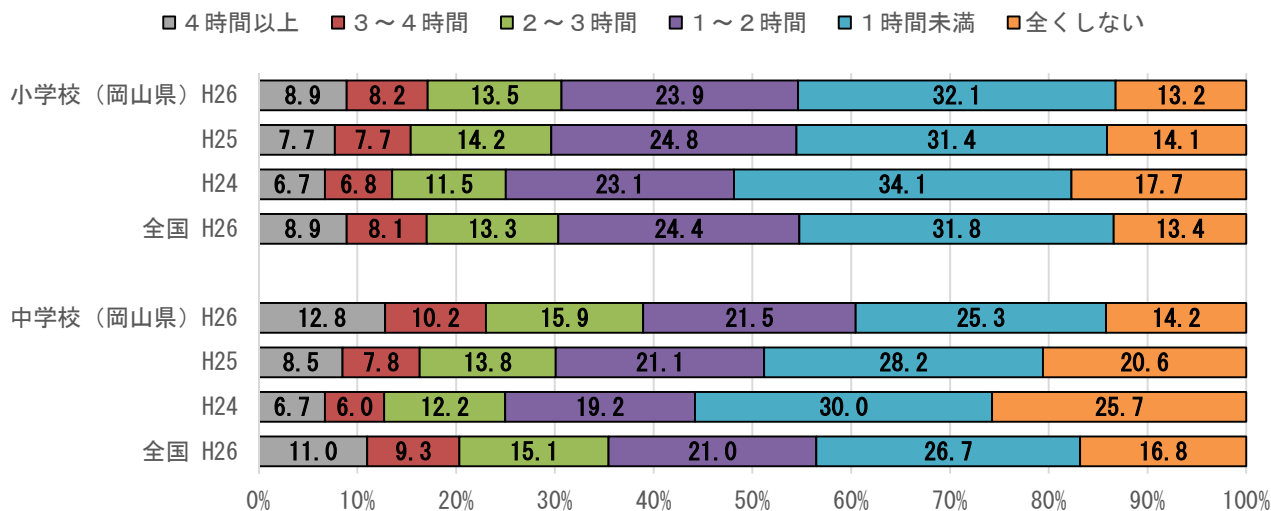
- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む）



- 家で、学校の授業の復習をしていますか



- 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



※ 平成26年度から「携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム」もこの設問に含まれる

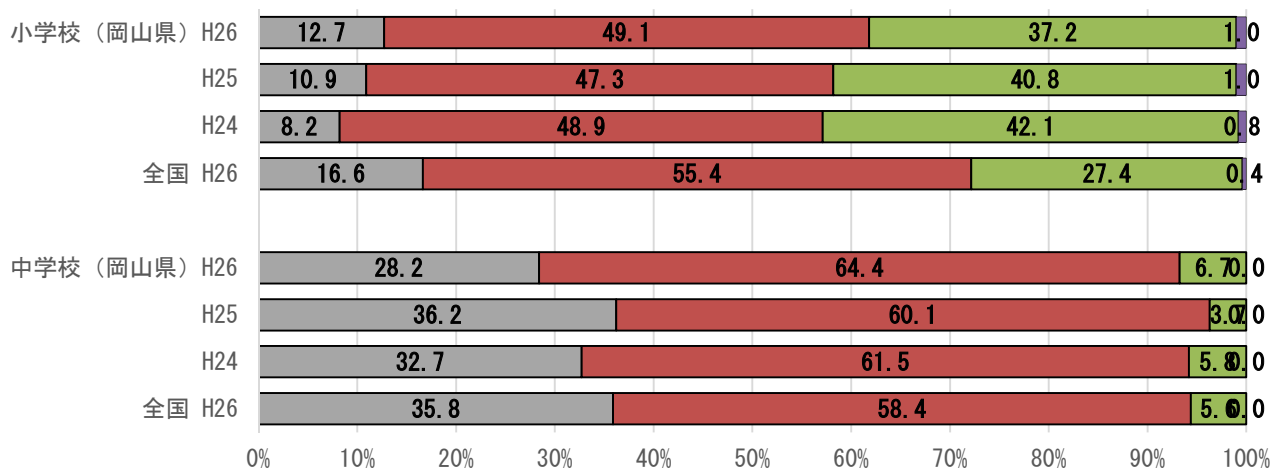
- 小中学校とも、先生はよいところを認めてくれる、授業のはじめの目標（めあて・ねらい）の提示などについて、概ね全国に比べ、肯定的な回答が多い。
- 小学校では、授業以外に1時間以上学習すると回答した児童の割合が増加するなど改善が見られるが、中学校では、授業以外に1時間以上学習すると回答した生徒の割合が減少するなど依然として課題がある。
- 小中学校ともにスマートフォン等の所持率は全国と比べてやや低いが、中学校において、テレビ等を1時間以上視聴する、スマートフォン等を1時間以上使う、テレビゲームを1時間以上すると回答した生徒の割合が全国より多く、家庭での学習時間に影響していると考えられる。
- 小中学校ともに、文章で説明したり、うまく伝わるように工夫して発表するなど、言語活動に関わる項目について課題が見られる。

(2) 学校質問紙調査の結果から見える特徴

図表5 キャリア教育 等

- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

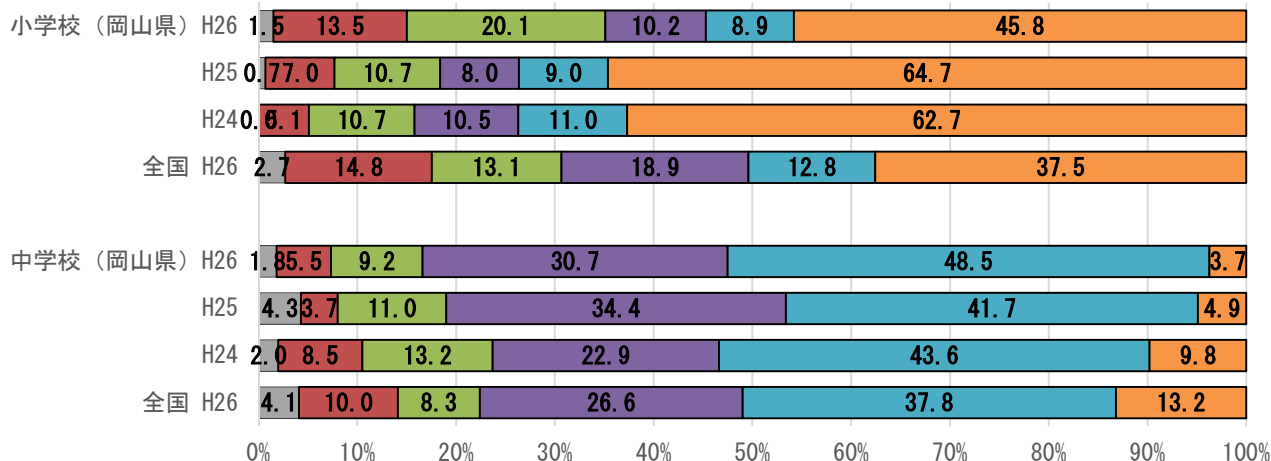
□よく行った □どちらかといえば、行った □どちらかといえば、行っていない □全く行っていない



図表6 学力向上に向けた取組 等

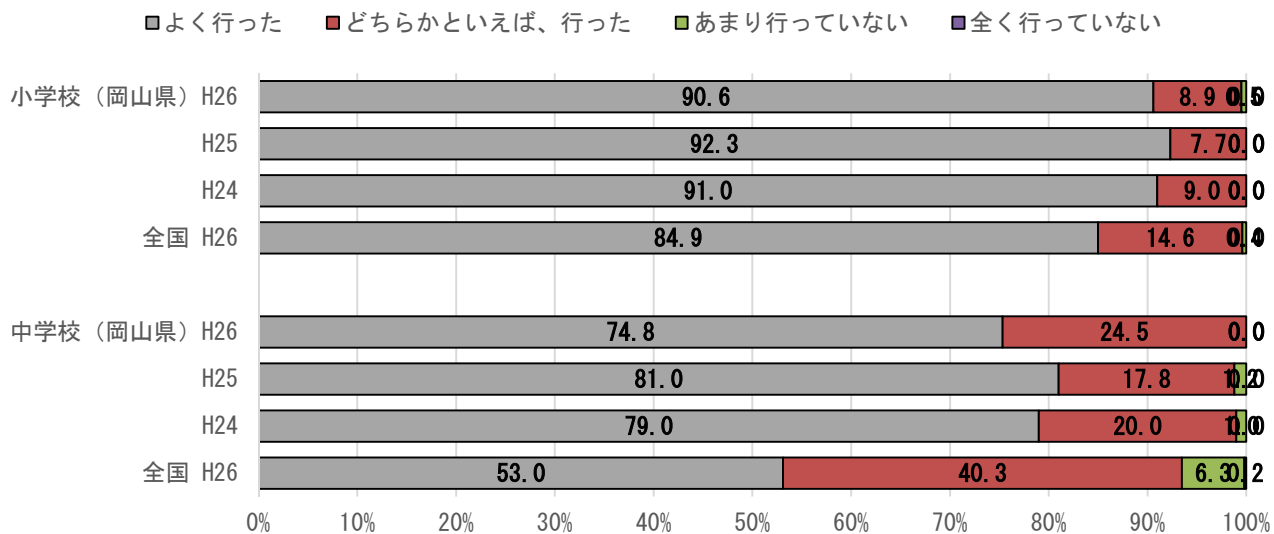
- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか

■週4回以上 ■週2～3回 ■週1回 ■月数回程度 ■年数回程度 ■行っていない

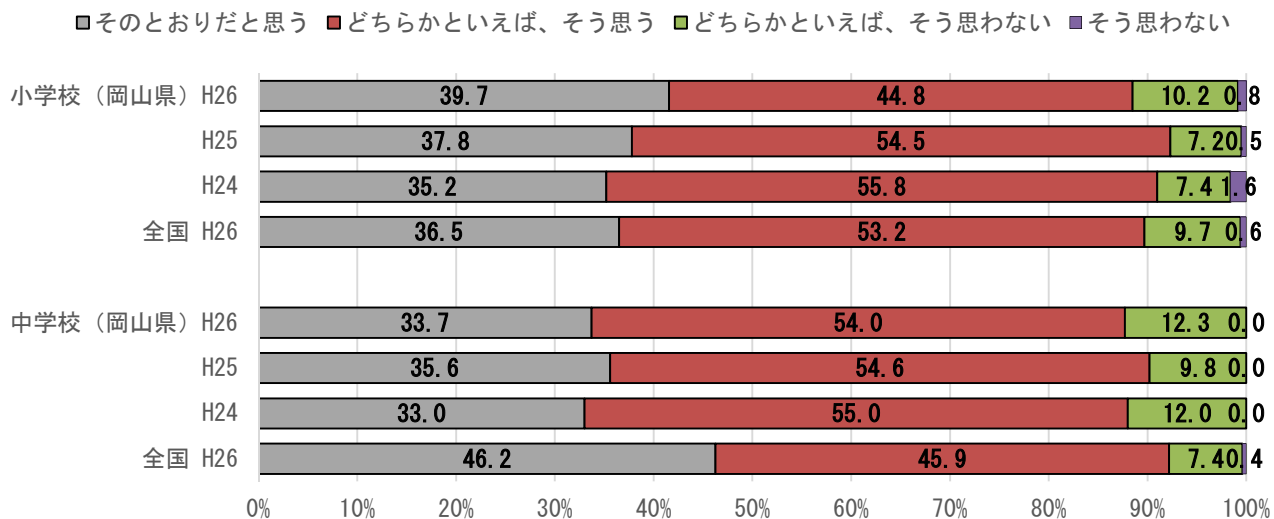


図表7 家庭学習、学習規律 等

- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



- 調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



- 小学校では、習熟度別指導やキャリア教育について、依然として課題が見られる。
- 小中学校ともに放課後等の補足的な学習サポートの実施、中学校では課題の与え方に課題がある。

県教育委員会の今後の取組等

(1) 昨年度の課題に対する総括

全国調査の結果を受け、市町村教育委員会・学校に対して、調査問題等を活用した授業改善、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る取組について働きかけてきた。また、新たに「学力定着状況たしかめテスト」の実施や、課題集の配付など、年度内に学習内容の確実な定着を図る取組を進めてきた。さらに、「魅力ある授業づくり徹底事業」の実施、学力調査官を招聘しての研修会の実施など授業改善の取組を推進してきた。その結果として、小学校算数Aの平均正答率が昨年度に比べて大幅に改善するなど一定の成果はあったものの、小学校での放課後補充学習等の実施や中学校での家庭学習時間の確保については、依然として課題が見られる。

(2) 本調査結果を受けて直ちに取組むこと

- ① 市町村別結果の公表（平成26年9月5日（金）予定）
市町村による改善プランを踏まえた詳細な分析等の公表
- ② 市町村教育委員会との意見交換及び課題に応じた支援
- ③ 小中学校長会との意見交換
- ④ 学力調査官を招聘しての授業研究会の実施
- ⑤ 分析・改善プラン作成支援ツールの配付
- ⑥ 各学校での設問ごとの課題の明確化と課題解決に向けた指導改善の促進・支援
- ⑦ 各市町村教育委員会・学校の調査結果を踏まえた改善プランの集約、プランに基づく取組の検証
- ⑧ 市町村・学校での成功事例等の普及
- ⑨ 成果を上げている他府県の取組についての情報収集及び発信